成田北高同窓会の発展を期す

同窓会会長　石井　幹夫

県内外でご活躍の同窓会員の皆様、ご壮健でお過ごしのこととお慶び申し上げます。皆さんには、日頃から本会の活動に物心両面のご援助を頂き、心よりお礼申し上げます。

私たちの母校は、一九八〇年（昭和五十五年）四月十五日に、開校式及び第一回入学式を行い、以来九千三百九十九名の卒業生を輩出しています。一九八〇年といえば、富士見産婦人科乱診事件、一億円拾得事件などがありました。ルービック・キューブやチョロQがブームになり、ポカリスエットが発売されました。芸能界では、山口百恵が引退、松田聖子がデビュー。シャネルズの「ランナウェイ」や谷村新司の「昴」がヒットし、「赤信号みんなで渡ればこわくない」という流行語を生みました。政治では、大平首相が急逝し、弔い合戦と称した、初の衆参同日選挙で自民党が圧勝しました。

そして、二〇〇九年。先の総選挙では民主党が三分の二の議席を占め、新しい政権が発足します。失業率が過去最悪の雇用問題や、年金問題に果敢に挑む姿勢が感じられます。県内に目を転じれば、森田健作さんが知事に就任し、国も県も**Change!**の時代を迎えようとしています。

昨今、コミュニティの崩壊が叫ばれています。コミュニティは「仲間」が集まって出来る組織です。コミュニティの成員は、コミュニティの為に行動し、コミュニティの幸せが自分の幸せであり、コミュニティの問題はみんなが真剣に考えます。コミュニティの中にいれば人は安心できます。周りの人は自分を大切に思ってくれ、守ってくれるからです。同様に、自分も周りの人を大切に思っていて、守ろうとします。コミュニティは、仲間意識と信頼によって守られます。友人の悩みは親身になって聴いてあげようとし、友人が困っていたら損得勘定抜きに助けようとします。互いに仲間意識と信頼を持っている複数の人が集まって集団を形成すると、それはコミュニティと呼ばれます。

コミュニティの中では、人は互いに自分の考えや思いを自由に出し合います。これがコミュニケーションです。ものや場所を共有するのがコミュニティで、考え方を共有するのがコミュニケーションです。コミュニケーションとは、お互いに仲間意識と信頼を持ち、お互いの考え方を共有しようとする行為です。考え方を共有しているから、一体になれるのです。

では、成田北高や北高同窓会のコミュニティはどうでしょう。やはり、崩壊してしまっているのでしょうか。同窓とは、もはや意味を持たないものになってしまったのでしょうか。私は通勤途中で北高の制服を見ると、今でも気になります。皆さんはどうですか。仕事上で関わる方のお子さんが、北高に通っていると聞けば、嬉しくなります。卒業して二十六年になりますが、「黎明祭」という言葉には、今でもときめきを覚えます。成田北高のスピリットは「開拓精神」であると、言われています。きっと、多くの同窓生がそのＤＮＡを思っているはずです。

百年に一度と言われる経済危機の中、生きづらさを痛感するこのような時代の中で迎える創立三十周年は、まさしく成田北高の新しい一歩を踏み出す時期にふさわしいのでないかと感じます。

今また、それぞれの地域・所属で、開拓精神を以って、困難に立ち向かっていきましょう。成田北高の卒業生が、各界のリーダーとなり、変化の魁となられることを期待します。

夢は語ることから始まります。新しい仲間との出会い、世代を超えた付き合いから、新しい発見や学び、勇気が湧いてきます。そのような場に、北高同窓会がなれることを願っています。